

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月13日
【四半期会計期間】	第57期第3四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	株式会社KeyHolder
【英訳名】	KeyHolder, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大出 悠史
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区東三丁目16番3号
【電話番号】	03(5843)8800
【事務連絡者氏名】	取締役 金谷 晃
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区東三丁目16番3号
【電話番号】	03(5843)8805
【事務連絡者氏名】	取締役 金谷 晃
【縦覧に供する場所】	株式会社KeyHolder 大阪支店 （大阪市淀川区西中島四丁目1番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期 第3四半期連結 累計期間	第57期 第3四半期連結 累計期間	第56期
会計期間	自2022年1月1日 至2022年9月30日	自2023年1月1日 至2023年9月30日	自2022年1月1日 至2022年12月31日
売上収益 (第3四半期連結会計期間) (千円)	16,376,583 (7,546,367)	21,469,665 (7,279,429)	22,062,586
税引前四半期(当期)利益 (千円)	2,043,922	1,943,468	2,175,636
親会社の所有者に帰属する四半期 (当期)利益 (第3四半期連結会計期間) (千円)	1,656,499 (443,484)	1,614,812 (372,857)	1,877,502
親会社の所有者に帰属する四半期 (当期)包括利益 (千円)	1,670,760	1,597,293	1,887,679
親会社の所有者に帰属する持分 (千円)	18,173,361	19,640,131	18,389,847
総資産額 (千円)	27,386,763	28,520,658	26,422,091
基本的1株当たり四半期(当期) 利益 (第3四半期連結会計期間) (円)	88.03 (23.68)	86.30 (19.96)	99.75
希薄化後1株当たり四半期(当 期)利益 (円)	88.03	86.30	99.75
親会社所有者帰属持分比率 (%)	66.4	68.9	69.6
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	1,432,974	810,161	1,649,086
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	2,051,806	710,792	1,523,508
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	2,033,869	730,627	2,241,663
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	5,058,750	5,329,097	4,538,770

(注) 1. 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 上記指標は、国際財務報告基準により作成された要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。

3. 希薄化後1株当たり四半期(当期)利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、基本的1株当たり四半期(当期)利益と同額であります。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況につきましては、今後の経過によっては当社グループの事業に影響を及ぼす可能性があり、経過につきましては引き続き注視してまいります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待されております。しかしながら、全世界的な情勢への不安感や不透明感がみられる中で、物価の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による景気の下振れリスクに十分注意する必要があり、先行きは予断を許さない状況であります。

当社グループにおける、各事業を取り巻く環境も日々変化しており、一般消費動向の影響を受け易い事業も一部あるものの、機動的に必要なかつ十分な対策を行うこととしております。

このような中、今後の経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行並びに組織再編等を見込み、2023年3月10日～同3月17日の期間におきまして、当社普通株式200,000株（取得総額：200,635,521円）を取得いたしました。また、グローバル基準の映像作品の制作を行うコンテンツスタジオ「TOKYO ROCK STUDIO株式会社」を設立し、グローバルスタンダードな映像制作現場のバックオフィス業務において重要な役割を担う、制作経理業務を開始いたしております。

直近の足許におきましては、10月17日付けで、当社及び株式会社トレードワークス並びに株式会社BEAMINGの3社間で、総合エンターテインメント事業における新たなファン組成に向けた「ファンダム」企画の検証と立ち上げに向けた業務提携契約を締結いたしました。また、同日付けで大規模なオーディション企画の開催と運営を専門的に実施する会社として、新たにbijoux株式会社を設立し、新たな事業の創出に向けて鋭意準備を進めております。

総合エンターテインメント事業では、事業環境の改善に伴い、大型イベントの開催やライブ・ツアーなどのほか、その他のタレントにつきましても、ドラマや各種番組への出演等、積極的な活動を展開いたしました。

映像制作事業につきましては、既存の番組制作の進捗のほか、特番放送されていた番組がレギュラー化された事に加え、ドラマ制作や参画した映画製作案件が公開されるなど順調なほか、海外を含めた動画配信プラットフォーム向けの映像制作を行っております。

広告代理店事業につきましても、前期よりインターネット広告事業及びインターネットメディア事業を開始しており、各種継続案件を着実に積み上げることで売上強化に努めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上収益21,469百万円（前年同四半期比+31.1%）、営業利益1,991百万円（前年同四半期比+6.2%）、税引前四半期利益1,943百万円（前年同四半期比 4.9%）、親会社の所有者に帰属する四半期利益1,614百万円（前年同四半期比 2.5%）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

<セグメント別概況>

〔総合エンターテインメント事業〕

(ライブ・エンターテインメント部門)

同部門につきましては、株式会社ゼスト及び株式会社ノース・リバー並びに株式会社A.M. Entertainment (以下「AME」という。)が、アーティストやタレント、スポーツ選手などのマネジメントを行っております。当社グループの主要アーティストの主な活動内容は以下のとおりであります。

アーティスト名	実施時期	内容：備考欄
SKE48	1月7日、8日	派生ユニット「プリマステラ」静岡出張公演 2 days
	3月5日	6期生10周年記念ライブ
	4月1日～ 5月5日	春のチームコンサート2023
	4月20日、 5月18日	シャチフレLIVE
	5月26日、 6月27日	江籠裕奈 4th Solo Live
	5月31日	熊崎晴香 ソロライブ
	6月1日	末永桜花 ソロライブ2023
	6月15日～ 18日	プリマステラ 2023 LIVE
	7月3日	31st「好きになっちゃった」リリース。7月11日発表の「オリコン週間シングルランキング」で初登場1位を獲得し、27作連続・通算27作目のシングル1位に。
	8月2日～ 9月1日	SUMMER Tour 2023
9月29日～ 10月1日	SKE48リクエストアワーセットリストベスト100	
10月1日	結成15周年ライブ	
乃木坂46	2月22日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY1」横浜アリーナ
	2月23日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY2～5期生ライブ～」横浜アリーナ
	2月24日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY3～4期生ライブ～」横浜アリーナ
	2月25日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY4～3期生ライブ～」横浜アリーナ
	2月26日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY5～秋元真夏 卒業コンサート～」横浜アリーナ
	3月28日	鈴木絢音 卒業セレモニー
	3月29日	32nd「人は夢を二度見る」リリース。4月4日発表の最新「オリコン週間シングルランキング」で初登場1位を獲得し、31作連続・通算31作目のシングル1位に。
	4月5日～ 4月27日	32nd シングルアンダーライブ
	5月17、18日	齋藤飛鳥卒業コンサート(東京ドーム)
	7月1日～ 8月28日	真夏の全国ツアー2023
	8月23日	33rd「おひとりさま天国」リリース。8月29日発表の最新「オリコン週間シングルランキング」で初登場1位を獲得し、32作連続・通算32作目のシングル1位に。
9月29日～ 10月1日	33rd シングルアンダーライブ	

Novel bright	1月20日～ 2月4日	竹中雄大 口笛コンサート ～Whistling Sound Vol.1～ (兵庫、東京)
	1月28日	「FUKUOKA MUSIC FES.2023」出演
	2月15日～	「ラストシーン」(TVアニメ『弱虫ペダル LIMIT BREAK』第2クールOP)
	2月20日～ 3月15日	NOVELCITY CARNIVAL Vol.3 (名古屋、東京、大阪)
	2月28日～ 3月13日	KICK THE AGE TOUR Vol.2.5 (福岡、大阪、名古屋)
	3月15日	新曲「嫌嫌」配信リリース
	4月9日～	新曲「Cantabile」がNHK Eテレ・アニメ「青のオーケストラ」オープニングテーマに決定
	4月7日～ 7月29日	Novelbright LIVE TOUR 2023 ～ODYSSEY～ 19都市20公演敢行
	8月30日～ 9月13日	ビルボードライブ・ツアー
	9月13日	新曲「面影」をリリース
	9月24日	LIVE TOUR 2023 結成10周年記念ライブ：大阪城ホール
	10月15日	LIVE TOUR 2023 結成10周年記念ライブ：横浜アリーナ 新曲「ODYSSEY」リリース。結成10周年記念シングル
	10月22日	LIVE TOUR 2023 ～ODYSSEY～ in KOREA

各種大型イベントやライブ等の開催における観客の声出しが可能になったことから、当社グループに所属するアーティストの活動におきましても、積極的かつ精力的な活動を展開したほか、併せてファン層の購買意欲も向上していることで、各種イベントにおけるグッズ売上やDVD等の原盤収入も想定を上回っており、業績の積み上げに寄与しております。

また、2023年3月末で乃木坂46を卒業した「鈴木絢音」が10月1日よりAMEの新所属となったほか、「et-アンド-」や「若月佑美」、「小栗有以」、「生駒里奈」、「古畑奈和」、「まるり」などの所属アーティストやタレントにつきましても、ドラマや各種イベント、情報番組への出演のほか、アニメや企業とのタイアップなど、様々な場面で活躍の場を増やしております。

(デジタル・コンテンツ部門)

同部門につきましては、アイドルとの恋愛疑似体験ができる恋愛シミュレーションアプリとして、2023年4月でリリースから7周年を迎えた乃木坂46公式の「乃木恋」や、2020年11月の発表より順調にダウンロード数を伸ばしている日向坂46公式の「ひなこい」など、スマートフォン向けのゲームアプリの企画・管理・運営やプロモーションに関わる支援を継続して行っております。

以上の結果、総合エンターテインメント事業の業績は、売上収益9,217百万円(前年同四半期比+10.6%)、セグメント利益2,135百万円(前年同四半期比+10.1%)となりました。

〔映像制作事業〕

同事業につきましては、株式会社UNITED PRODUCTIONSが既存の人気バラエティ番組や、所属アーティストのMVの制作のほか、ドラマ制作、映画製作委員会への出資及び製作を行っております。映像制作における、主な成果(レギュラー化やドラマ、映画製作等)は以下のとおりであります。

分類	放送・公開 開始日等	番組名(補足)
----	---------------	---------

バラエティ	4月11日～	TBSテレビ「再現できたら100万円！THE神業チャレンジ」が特番を経て、レギュラー番組に昇格
	4月16日	「運搬千鳥 それ、どうやって運ぶんじゃ？」（特番）
	5月13日、27日	「理系応援バラエティ 実験ジャパン」（特番）
	5月20日	「企業満足度調査員 忌憚ナク蔵&ナク美」（特番）
	6月10日	「オドオド×ハラハラ」（特番）
	7月22、23日	「千鳥の鬼レンチャン（フジテレビ）」をメインにしたフジテレビ特番「FNS27時間テレビ」を放送
	8月5日	「ファン1万人がガチで投票！高校野球総選挙2023」3時間SP（特番）
	8月19日	「池上彰と林修が初タッグ！日本の「今」を徹底解説！学びコラボSP」3時間半SP（特番）
	9月2日	「何を隠そう...ソレが！」（特番）
	9月17日	「とみおたち」（特番）
	10月3日～	新番組 テレビ朝日「新しい学校のリーダーズの課外授業」放送開始
	10月10日～	「トークサバイバー！～トークが面白いと生き残れるドラマ～（Netflix）」のシーズン2が全世界同時配信開始
10月14日	「オールスター感謝祭2023秋」5時間半SP（特番）	
ドラマ	2月10日～	Hulu「社畜OLちえ丸日記」
	3月28日～	TBSドラマストリーム「私がヒモを飼うなんて」
	4月14日～	NTTドコモ「Lemino」のオリジナルドラマ「アクトレス」
	7月11日～	TBSドラマ「18/40（エイティーン/フォーティー）～ふたりなら夢も恋も～」
	9月17日～	MBS「女子高生、僧になる。」
10月24日～	MBS「マイホームヒーロー」	
映画	6月23日～	企画・製作として、人気コミック作品の「君は放課後インソムニア」を原作とした同名映画化作品に携わる。全国136館で上映
	9月18日	2024年公開予定の映画「若き見知らぬ者たち」制作開始を発表
	9月29日～	横尾初喜監督の最新作、オール長崎ロケーション映画「こん、こん。」全国順次公開

その他にも、既存のバラエティ番組をはじめ、継続的に特番を多数制作しており、積極的に受注を獲得いたしまして、着実に実績を積み上げております。

株式会社TechCarryで展開しております、番組制作等でプロの技術者が使用する機材レンタル事業や編集作業を行うポストプロダクション事業につきましては、事業規模の拡大に必要な機材について、一定の商材確保が完了しており、着実に実績を積み上げております。

制作スタッフの派遣事業につきましては、派遣先である映像制作会社の状況に伴って、派遣の受け入れの変動はあるものの、引き続き順調に推移しております。

以上の結果、映像制作事業の業績は、売上収益4,865百万円（前年同四半期比+23.2%）、セグメント利益197百万円（前年同四半期比 27.7%）となりました。

〔広告代理店事業〕

株式会社FA Projectにて展開するデジタル広告部門では、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業を展開しており、男性用脱毛サロンやフィットネスジム、ゴルフレッスンスクール等の顧客獲得の実績を積み上げており、クライアントの要望に基づく広告案件を、YouTube等の動画配信プラットフォームを中心としたSNS媒体向けに制作するほか、アフィリエイト広告等の戦略的な広告展開を図っております。

株式会社allfuzにて展開する広告代理店部門につきましては、特に株式会社セブンイレブン・ジャパンが展開しているセブンネットショッピングにおいて、年間を通して様々な取り組みを実施しております。また、同社は乃木坂46公式ライバルグループ「僕が見たかった青空」の立ち上げプロジェクトに資本参画しており、広告代理店として本プロジェクトにおけるマーチャンダイジングの部分で活動をサポートしております。広告代理店における、当第3四半期連結累計期間までに実績となった主な実施案件は以下のとおりであります。

E C販売・キャンペーン等開始日	案件名
2022年6月1日～	go!go!vanillas オフィシャルグッズ販売
2022年11月10日～	Dragon Ash 25周年記念 オリジナルグッズ販売
2022年11月30日～	5ピース オフィシャルアイテム販売 / フォロー&リツイート キャンペーン
2022年12月7日～	UNICORNデビュー35周年記念ギフト UNICORN×八天堂 記念セット
2022年12月12日～	UNICORNデビュー35周年記念ギフト UNICORN×酔心 鳳凰酔心 窮極の大吟醸
2023年1月13日～	Live the SPEEDSTAR オリジナルグッズ販売

2023年1月25日～	ゆず オリジナルグッズ販売
2023年2月10日～	Dragon Ashドラマー 桜井誠プロデュース桜井食堂ダブルペッパーポークカレー
2023年5月9日～	まるり オフィシャルグッズ販売
2023年7月22日～ 8月31日	お台場冒険王オフィシャルサポーター就任（僕が見たかった青空）
2023年7月22日～	セブンイレブン「セブンカフェスムージー」CM（僕が見たかった青空）
2023年7月31日～	SHE'S オフィシャルグッズ販売
2023年8月2日～	EARTHSHAKER オフィシャルグッズ販売
2023年8月19日～	「CHINTAI」の新イメージキャラクター就任（僕が見たかった青空）
2023年8月24日～ 9月13日	ABC-MART・ニューバランスのキャンペーン第1弾モデル就任（僕が見たかった青空）
2023年8月31日～	まるり×向井珍味堂 オリジナルきな粉 まるきなこ販売（受注販売）
2023年9月14日～	ABC-MART・ニューバランスのキャンペーン第2弾モデル就任（僕が見たかった青空）

販売開始時期やキャンペーン開始時期を問わず、当第3四半期連結累計期間までの積み上げ案件を列挙しております。広告代理店部門におきましては、相手先企業との契約上の兼ね合いから公表できる案件名は少なく、上記実績はその一部となります。

上記のほか、有名スポーツ選手を起用したテレビCMに関する案件、スポーツ競技や各種イベント、著名アーティストの協賛に関わる業務、行政機関や各企業、学校法人等からの依頼案件において実績を積み上げております。

以上の結果、広告代理店事業の業績は、売上収益7,312百万円（前年同四半期比+91.7%）、セグメント利益145百万円（前年同四半期比+152.7%）となりました。

〔その他事業〕

同事業につきましては、当社において不動産賃貸事業を展開しております。

以上の結果、その他事業の業績は、昨年9月末に運送事業の全株式を譲渡したことにより、売上収益74百万円（前年同四半期比 73.1%）、セグメント利益19百万円（前年同四半期比 67.4%）となりました。

(2)資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べて2,098百万円増の28,520百万円となりました。これは主として現金及び現金同等物、営業債権及びその他の債権が増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて875百万円増の9,303百万円となりました。これは主として営業債務及びその他の債務、契約負債が増加したことによるものであります。

資本につきましては、前連結会計年度末に比べて1,222百万円増の19,217百万円となりました。これは主として自己株式の取得により減少した一方で、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3)キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ790百万円増加し5,329百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、810百万円の資金の増加（前年同四半期比 43.5%）となりました。これは主として持分法による投資利益の計上に加え、営業債権及びその他の債権の増加により資金が減少した一方で、税引前四半期利益に加え、営業債務及びその他の債務、契約負債の増加により資金が増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、710百万円の資金の増加（前年同四半期比 65.4%）となりました。これは主として利息及び配当金の受取により資金が増加したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、730百万円の資金の減少（前年同四半期は2,033百万円の資金の減少）となりました。これは主として自己株式の取得、利息及び配当金の支払、リース負債の返済によるものであります。

(4)優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5)研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	55,000,000
計	55,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月13日)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	18,967,410	18,967,410	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数100株
計	18,967,410	18,967,410	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	-	18,967,410	-	92,450	-	8,013,482

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 290,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,556,100	185,561	-
単元未満株式	普通株式 120,910	-	-
発行済株式総数	18,967,410	-	-
総株主の議決権	-	185,561	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が6,200株および自己株式の失念株式700株が含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数62個および失念株式に係る議決権の数7個が含まれております。
2. 「単元未満株式」の中には、当社名義となっておりますが実質的には所有していない株式(名義書換失念株)が35株あります。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社KeyHolder	東京都渋谷区東3-16-3	290,400	-	290,400	1.53
計	-	290,400	-	290,400	1.53

- (注) 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが実質的には所有していない株式が700株(議決権の数7個)あります。
- なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の欄に含まれております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：千円)

	注記	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2023年9月30日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		4,538,770	5,329,097
営業債権及びその他の債権	14	3,506,718	4,512,702
その他の金融資産	14	956,385	989,389
棚卸資産	7	449,819	584,220
その他の流動資産		145,961	285,260
流動資産合計		9,597,655	11,700,671
非流動資産			
有形固定資産		1,152,041	1,171,610
のれん	8	5,215,259	5,219,159
無形資産	8	1,959,621	1,672,476
投資不動産		954,550	920,703
持分法で会計処理している投資		6,495,093	6,916,495
その他の金融資産	14	799,464	722,598
繰延税金資産		61,011	33,180
その他の非流動資産		187,394	163,762
非流動資産合計		16,824,435	16,819,986
資産合計		26,422,091	28,520,658

(単位：千円)

	注記	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2023年9月30日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務及びその他の債務	14	3,077,177	3,798,314
社債及び借入金	9・14	845,564	915,564
その他の金融負債	14	581,585	665,615
未払法人所得税等		175,677	52,398
引当金		-	143,047
契約負債		444,470	715,795
その他の流動負債		244,740	301,347
流動負債合計		5,369,216	6,592,083
非流動負債			
社債及び借入金	9・14	1,148,710	1,172,909
その他の金融負債	14	1,082,875	832,460
長期従業員給付		146,045	182,747
引当金		166,595	171,356
繰延税金負債		514,177	351,800
非流動負債合計		3,058,403	2,711,273
負債合計		8,427,620	9,303,357
資本			
資本金	10	92,450	92,450
資本剰余金	10	14,660,367	14,667,954
自己株式	10	94,655	260,446
その他の資本の構成要素		86,597	75,669
利益剰余金		3,645,088	5,064,504
親会社の所有者に帰属する持分合計		18,389,847	19,640,131
非支配持分		395,376	422,830
資本合計		17,994,471	19,217,301
負債及び資本合計		26,422,091	28,520,658

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上収益	12	16,376,583	21,469,665
売上原価		12,976,819	17,826,601
売上総利益		3,399,763	3,643,063
販売費及び一般管理費		2,789,064	2,907,845
持分法による投資利益		1,147,066	1,211,402
その他の収益		172,145	55,605
その他の費用		53,910	10,392
営業利益		1,876,000	1,991,833
金融収益		233,458	7,499
金融費用		65,535	55,864
税引前四半期利益		2,043,922	1,943,468
法人所得税費用		405,148	344,316
四半期利益		1,638,774	1,599,151
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		1,656,499	1,614,812
非支配持分		17,724	15,660
四半期利益		1,638,774	1,599,151
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益	13	88.03	86.30
希薄化後1株当たり四半期利益	13	88.03	86.30

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
売上収益	7,546,367	7,279,429
売上原価	6,206,544	6,165,725
売上総利益	1,339,823	1,113,704
販売費及び一般管理費	1,150,364	969,480
持分法による投資利益	391,654	215,376
その他の収益	20,839	44,337
その他の費用	29,030	2,915
営業利益	572,922	401,023
金融収益	801	3,150
金融費用	33,778	17,634
税引前四半期利益	539,945	386,539
法人所得税費用	100,910	27,430
四半期利益	439,035	359,108
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	443,484	372,857
非支配持分	4,449	13,748
四半期利益	439,035	359,108
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益	13	23.68
希薄化後1株当たり四半期利益	13	23.68

【要約四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期利益	1,638,774	1,599,151
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	14 14,260	17,519
純損益に振り替えられることのない項目	14,260	17,519
合計	14,260	17,519
税引後その他の包括利益	14,260	17,519
四半期包括利益	1,653,035	1,581,632
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	1,670,760	1,597,293
非支配持分	17,724	15,660
四半期包括利益	1,653,035	1,581,632

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
四半期利益	439,035	359,108
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	7,755	12,396
純損益に振り替えられることのない項目	7,755	12,396
合計	7,755	12,396
税引後その他の包括利益	7,755	12,396
四半期包括利益	446,790	346,712
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	451,239	360,461
非支配持分	4,449	13,748
四半期包括利益	446,790	346,712

(3)【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年9月30日)

(単位:千円)

	注記	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2022年1月1日時点の残高		6,566,249	8,198,961	29,309	77,617	1,955,790	16,769,309	375,836	16,393,473
四半期利益						1,656,499	1,656,499	17,724	1,638,774
その他の包括利益					14,260		14,260		14,260
四半期包括利益合計		-	-	-	14,260	1,656,499	1,670,760	17,724	1,653,035
減資		6,476,249	6,476,249				-		-
新株予約権の行使		2,450	2,450		50		4,850		4,850
剰余金の配当	11					189,352	189,352		189,352
自己株式の取得			1,401	280,861			282,263		282,263
自己株式の処分			15,892	215,949			200,057		200,057
利益剰余金への振替					1,147	1,147	0		0
所有者との取引額合計		6,473,799	6,461,406	64,912	1,197	188,204	266,708	-	266,708
2022年9月30日時点の残高		92,450	14,660,367	94,221	90,681	3,424,085	18,173,361	393,561	17,779,800

当第3四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年9月30日)

(単位:千円)

	注記	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2023年1月1日時点の残高		92,450	14,660,367	94,655	86,597	3,645,088	18,389,847	395,376	17,994,471
四半期利益						1,614,812	1,614,812	15,660	1,599,151
その他の包括利益					17,519		17,519		17,519
四半期包括利益合計		-	-	-	17,519	1,614,812	1,597,293	15,660	1,581,632
支配継続子会社に対する持分変動			3,694				3,694	11,794	8,100
新株予約権の行使					440		440		440
剰余金の配当	11					188,365	188,365		188,365
自己株式の取得			866	204,151			205,017		205,017
自己株式の処分			4,760	38,360			43,120		43,120
その他の資本の構成要素からの利益剰余金への振替					7,031	7,031	-		-
所有者との取引額合計		-	7,587	165,791	6,591	195,396	347,008	11,794	358,802
2023年9月30日時点の残高		92,450	14,667,954	260,446	75,669	5,064,504	19,640,131	422,830	19,217,301

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	2,043,922	1,943,468
減価償却費及び償却費	740,705	745,869
受取利息及び受取配当金	15,155	5,144
支払利息	40,086	34,350
持分法による投資損益(は益)	1,147,066	1,211,402
固定資産売却損益(は益)	46,935	2,558
固定資産除却損	28,829	0
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品の公正価値変動	164,068	20,872
関係会社株式売却益	662	-
営業債権及びその他の債権の増減額(は増加)	496,147	962,824
棚卸資産の増減額(は増加)	59,015	134,400
営業債務及びその他の債務の増減額(は減少)	571,926	700,638
契約負債の増減額(は減少)	145,908	271,325
預り金の増減額(は減少)	50,288	34,837
配当源泉税の未払いの増減額(は減少)	1,026,388	-
引当金の増減額(は減少)	1,263	143,047
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	84,830	36,701
その他	9,140	46,113
小計	470,418	1,498,992
法人所得税等の支払額	461,386	785,243
法人所得税等の還付額	1,423,942	96,412
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,432,974	810,161
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(は増加)	590,003	40,000
有形固定資産の取得による支出	18,811	89,068
有形固定資産の売却による収入	341,462	2,558
無形資産の取得による支出	8	400
投資不動産の売却による収入	406,220	-
投資有価証券の取得による支出	99,000	-
投資有価証券の売却による収入	1,929,033	100,788
出資金の払込による支出	16,500	19,297
保険積立金の積立による支出	-	48,636
保険積立金の解約による収入	76,242	-
敷金保証金の差入による支出	7,053	163,266
敷金保証金の回収による収入	22,787	156,008
資産除去債務の履行による支出	5,600	2,065
利息及び配当金の受取額	15,155	795,144
事業譲受による収入	-	17,298
連結範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	2,647	-
持分法で会計処理している投資の売却による収入	2,228	-
その他	10,126	1,728
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,051,806	710,792

(単位：千円)

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (は減少)	500,000	-
長期借入れによる収入	500,000	850,000
長期借入金の返済による支出	855,817	761,801
社債の償還による支出 9	236,080	14,000
自己株式の取得による支出	280,861	204,151
自己株式の売却による収入	57	-
利息及び配当金の支払額	211,543	206,887
リース負債の返済による支出	445,331	427,495
新株予約権の行使に伴う収入	4,850	42,680
連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	8,100
その他	9,143	873
財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>2,033,869</u>	<u>730,627</u>
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	1,450,911	790,326
現金及び現金同等物の期首残高	3,607,839	4,538,770
現金及び現金同等物の四半期末残高	<u><u>5,058,750</u></u>	<u><u>5,329,097</u></u>

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

株式会社KeyHolder（以下「当社」という。）は日本に所在する株式会社であります。その登記されている本社住所は当社のウェブサイト（<https://www.keyholder.co.jp/>）で開示しております。2023年9月30日に終了する9ヶ月間の当社の要約四半期連結財務諸表は、当社及びその子会社（以下「当社グループ」という。）並びに当社グループの関連会社により構成されております。

当社グループの事業内容は、総合エンターテインメント事業、映像制作事業、広告代理店事業であります。各事業の内容については、注記「5. 事業セグメント」に記載しております。

2. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

要約四半期連結財務諸表は、年次連結財務諸表で要求されている全ての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

本要約四半期連結財務諸表は、2023年11月13日に当社取締役会によって承認されております。

(2) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、千円未満を切り捨てて表示しております。

3. 重要性がある会計方針

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

また、当第3四半期連結累計期間の法人所得税費用は、一部の子会社を除き、見積年次実効税率を基に算定しております。

なお、当社及び一部の子会社は、第1四半期連結会計期間より、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。

当社グループは、第1四半期連結会計期間より、以下の基準を適用しております。

IFRS		新設・改訂の概要
IAS第1号	財務諸表の表示	重要な（significant）会計方針ではなく、重要性がある（material）会計方針の開示を要求する改訂
IAS第8号	会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬	会計方針と会計上の見積りとの区分を明確化
IAS第12号	法人所得税	リース及び廃棄義務に係る繰延税金の会計処理を明確化

上記基準書の適用による要約四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

IFRSに準拠した要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の金額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定を行うことが要求されております。実際の業績は、これら見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直されます。会計上の見積りの見直しによる影響は、見積りを見直した会計期間及びそれ以降の将来の会計期間において認識されます。

なお、当社グループの本要約四半期連結財務諸表の金額に重要な影響を与える判断及び見積りの方法は、前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様であります。

5. 事業セグメント

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等が経営資源配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社及び当社の連結子会社を基礎とした業種別のセグメントから構成されており、「総合エンターテインメント事業」、「映像制作事業」、「広告代理店事業」の3つの事業セグメントを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの概要は以下のとおりであります。

- 「総合エンターテインメント事業」：タレント及びアイドル等の芸能プロダクション運営・管理
イベントの企画・運営及びイベントスペースの運営・管理など
- 「映像制作事業」：各種映像コンテンツの企画・制作
映像制作スタッフの養成及び派遣など
- 「広告代理店事業」：タレント・アーティスト等のキャスティング
デジタル広告及びプロモーションの企画・開発
インターネット広告事業及びインターネットメディア事業など

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は以下のとおりであります。

報告セグメントの会計方針は、注記「3. 重要性がある会計方針」で記載しております当社グループの会計方針と同じであります。なお、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

前第3四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	8,336,753	3,948,482	3,815,134	16,100,369
セグメント間収益	80,445	10,622	99,424	190,493
合計	8,417,199	3,959,105	3,914,558	16,290,863
セグメント損益（注）3 （営業利益）	1,939,346	273,376	57,688	2,270,411

金融収益

金融費用

税引前四半期利益

	その他 （注）1	合計	調整額 （注）2	連結
売上収益				
外部収益	276,213	16,376,583	-	16,376,583
セグメント間収益	1,170	191,663	191,663	-
合計	277,383	16,568,246	191,663	16,376,583
セグメント損益（注）3 （営業利益）	61,190	2,331,602	455,602	1,876,000

金融収益

233,458

金融費用

65,535

税引前四半期利益

2,043,922

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業及び運送事業であります。

2. セグメント損益の調整額 455,602千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損益は、要約四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	9,217,416	4,865,202	7,312,660	21,395,279
セグメント間収益	38,494	4,778	134,971	178,244
合計	9,255,910	4,869,981	7,447,631	21,573,523
セグメント損益(注)3 (営業利益)	2,135,254	197,659	145,763	2,478,677

金融収益

金融費用

税引前四半期利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	74,385	21,469,665	-	21,469,665
セグメント間収益	-	178,244	178,244	-
合計	74,385	21,647,909	178,244	21,469,665
セグメント損益(注)3 (営業利益)	19,917	2,498,595	506,762	1,991,833

金融収益

7,499

金融費用

55,864

税引前四半期利益

1,943,468

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業であります。
2. セグメント損益の調整額 506,762千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損益は、要約四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

前第3四半期連結会計期間(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	3,173,358	1,272,685	3,003,758	7,449,802
セグメント間収益	9,948	1,396	85,702	97,047
合計	3,183,306	1,274,082	3,089,460	7,546,849
セグメント損益(注)3 (営業利益)	526,112	96,573	62,333	685,019

金融収益

金融費用

税引前四半期利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	96,565	7,546,367	-	7,546,367
セグメント間収益	-	97,047	97,047	-
合計	96,565	7,643,414	97,047	7,546,367
セグメント損益(注)3 (営業利益)	25,624	710,644	137,721	572,922

金融収益

801

金融費用

33,778

税引前四半期利益

539,945

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業及び運送事業であります。

2. セグメント損益の調整額 137,721千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損益は、要約四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	3,301,387	1,657,092	2,297,345	7,255,825
セグメント間収益	11,629	2,892	36,487	51,008
合計	3,313,017	1,659,984	2,333,832	7,306,834
セグメント損益(注)3 (営業利益)	444,477	62,795	13,537	520,810

金融収益

金融費用

税引前四半期利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	23,603	7,279,429	-	7,279,429
セグメント間収益	-	51,008	51,008	-
合計	23,603	7,330,438	51,008	7,279,429
セグメント損益(注)3 (営業利益)	8,469	529,280	128,257	401,023

金融収益

3,150

金融費用

17,634

税引前四半期利益

386,539

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業であります。
2. セグメント損益の調整額 128,257千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損益は、要約四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

6. 企業結合

前第3四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

7. 棚卸資産

棚卸資産の評価減の金額及び評価減の戻入金額は以下のとおりであります。

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）
評価減の金額	1,767	-

8. のれん及び無形資産

のれん及び無形資産の帳簿価額の増減は以下のとおりであります。

（単位：千円）

	のれん	無形資産
2023年1月1日	5,215,259	1,959,621
取得	-	400
企業結合による取得	3,899	-
処分	-	-
償却費	-	287,544
減損損失	-	-
2023年9月30日	5,219,159	1,672,476

9. 社債

前第3四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）

(1) 発行した社債

発行した社債はありません。

(2) 償還した社債

償還した社債は以下のとおりであります。

会社名	銘柄	発行年月日	償還金額 （千円）	利率 （％）	償還期限
当社	第9回社債	2017年1月31日	222,080	0.84	2022年1月31日
(株)allfuz	第1回無担保社債	2020年6月10日	14,000	0.40	2027年6月10日

当第3四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）

(1) 発行した社債

発行した社債はありません。

(2) 償還した社債

償還した社債は以下のとおりであります。

会社名	銘柄	発行年月日	償還金額 （千円）	利率 （％）	償還期限
(株)allfuz	第1回無担保社債	2020年6月10日	14,000	0.40	2027年6月10日

10. 資本及びその他の資本項目

(1) 授權株式数及び発行済株式総数

授權株式数及び発行済株式総数の増減は以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
授權株式数	株	株
普通株式	55,000,000	55,000,000
発行済株式総数		
期首残高	18,962,410	18,967,410
期中増加(注)	5,000	-
期中減少	-	-
四半期末残高	18,967,410	18,967,410

(注) 期中増加の主な要因は、新株予約権の行使によるものであります。

(2) 自己株式

自己株式数の増減は以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
自己株式数	株	株
期首残高	27,186	130,909
期中増加(注)1	403,110	204,462
期中減少(注)2	299,940	44,000
四半期末残高	130,356	291,371

(注) 1. 期中増加の主な要因は、取締役会決議に基づく自己株式の取得によるものであります。

2. 期中減少の主な要因は、新株予約権の行使に伴う自己株式の交付によるものであります。

11. 配当金

(1) 配当金の支払額

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

決議日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年3月29日 定時株主総会	189,352	10.00	2021年12月31日	2022年3月30日

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

決議日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年3月28日 定時株主総会	188,365	10.00	2022年12月31日	2023年3月29日

12. 売上収益

(1) 収益の分解

顧客との契約とその他の源泉から認識した収益

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
顧客との契約から認識した収益	16,203,523	21,298,318
その他の源泉から認識した収益(注)	173,060	171,347
合計	16,376,583	21,469,665

(注) その他の源泉から認識した収益には、IFRS第9号「金融商品」に基づく利息及び配当収益等、IFRS第16号「リース」に基づいて認識したリースに係る収益が含まれております。

分解した収益とセグメント収益の関連

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント		
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業
主要な収益内訳			
役務収益	2,973,539	3,945,886	3,806,090
販売収益	2,863,604	598	8,457
ロイヤリティ収入	2,142,452	137	586
その他の収益	259,962	-	-
顧客との契約から認識した収益	8,239,559	3,946,622	3,815,134
その他の源泉から認識した収益	97,194	1,859	-
合計	8,336,753	3,948,482	3,815,134
収益認識の時期			
一時点で移転される財	6,773,240	3,356,467	3,797,525
一定の期間にわたり移転されるサービス	1,466,318	590,155	17,608
顧客との契約から認識した収益	8,239,559	3,946,622	3,815,134
その他の源泉から認識した収益	97,194	1,859	-
合計	8,336,753	3,948,482	3,815,134

	その他	合計
主要な収益内訳		
役務収益	202,207	10,927,723
販売収益	-	2,872,660
ロイヤリティ収入	-	2,143,176
その他の収益	-	259,962
顧客との契約から認識した収益	202,207	16,203,523
その他の源泉から認識した収益	74,006	173,060
合計	276,213	16,376,583
収益認識の時期		
一時点で移転される財	200,325	14,127,558
一定の期間にわたり移転されるサービス	1,882	2,075,964
顧客との契約から認識した収益	202,207	16,203,523
その他の源泉から認識した収益	74,006	173,060
合計	276,213	16,376,583

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント		
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業
主要な収益内訳			
役務収益	3,169,263	4,863,116	7,274,170
販売収益	3,348,825	-	23,235
ロイヤリティ収入	2,385,393	74	15,254
その他の収益	215,277	-	-
顧客との契約から認識した収益	9,118,759	4,863,190	7,312,660
その他の源泉から認識した収益	98,656	2,012	-
合計	9,217,416	4,865,202	7,312,660
収益認識の時期			
一時点で移転される財	7,842,959	4,292,369	7,296,047
一定の期間にわたり移転されるサービス	1,275,799	570,820	16,612
顧客との契約から認識した収益	9,118,759	4,863,190	7,312,660
その他の源泉から認識した収益	98,656	2,012	-
合計	9,217,416	4,865,202	7,312,660

	その他	合計
主要な収益内訳		
役務収益	3,707	15,310,258
販売収益	-	3,372,060
ロイヤリティ収入	-	2,400,721
その他の収益	-	215,277
顧客との契約から認識した収益	3,707	21,298,318
その他の源泉から認識した収益	70,678	171,347
合計	74,385	21,469,665
収益認識の時期		
一時点で移転される財	3,707	19,435,085
一定の期間にわたり移転されるサービス	-	1,863,232
顧客との契約から認識した収益	3,707	21,298,318
その他の源泉から認識した収益	70,678	171,347
合計	74,385	21,469,665

13. 1株当たり利益

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(千円)	1,656,499	1,614,812
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益(千円)	1,656,499	1,614,812
発行済普通株式の加重平均株式数(株)	18,816,939	18,710,671
普通株式増加数		
ストック・オプションによる増加(株)	-	-
希薄化後の普通株式の加重平均株式数(株)	18,816,939	18,710,671
基本的1株当たり四半期利益(円)	88.03	86.30
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	88.03	86.30
希薄化効果を有しないため、希薄化後1株当たり四半期利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	株式会社KeyHolder 第2回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 1,602,940株) 株式会社KeyHolder 第3回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 295,000株) 株式会社KeyHolder 第4回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 192,150株)	株式会社KeyHolder 第2回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 1,602,940株) 株式会社KeyHolder 第3回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 251,000株) 株式会社KeyHolder 第4回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 192,150株)

(注) 希薄化後1株当たり四半期利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、基本的1株当たり四半期利益と同額であります。

	前第3四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(千円)	443,484	372,857
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益(千円)	443,484	372,857
発行済普通株式の加重平均株式数(株)	18,730,995	18,676,523
普通株式増加数		
ストック・オプションによる増加(株)	-	-
希薄化後の普通株式の加重平均株式数(株)	18,730,995	18,676,523
基本的1株当たり四半期利益(円)	23.68	19.96
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	23.68	19.96
希薄化効果を有しないため、希薄化後1株当たり四半期利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	株式会社KeyHolder 第2回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 1,602,940株) 株式会社KeyHolder 第3回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 295,000株) 株式会社KeyHolder 第4回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 192,150株)	株式会社KeyHolder 第2回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 1,602,940株) 株式会社KeyHolder 第3回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 251,000株) 株式会社KeyHolder 第4回新株予約権(新株予約権の目的となる株式の数 192,150株)

(注) 希薄化後1株当たり四半期利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、基本的1株当たり四半期利益と同額であります。

14. 金融商品の公正価値

(1) 公正価値の算定方法

金融資産

・営業債権及びその他の債権

1年以内で決済されるものについては、公正価値は帳簿価額と近似しております。

・その他の金融資産

上場株式の公正価値については、期末日の市場価格によって算定しております。非上場株式の公正価値については、類似会社の市場価格に基づく評価技法等により算定しております。

保険積立金の公正価値については、期末時点での解約返戻金により算定しております。

上記以外の項目については、1年以内で決済されるものについては、公正価値は帳簿価額と近似しております。

長期の項目については、将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に基づく利率で割り引いた現在価値等により算定しております。

金融負債

・営業債務及びその他の債務

これらはほとんどが1年以内で決済されるものであるため、公正価値は帳簿価額と近似しております。

・社債及び借入金

固定金利によるものは、リスクフリー・レートに信用リスクを加味した率を再実効レートとみなし、元利金の合計額を割り引いて算定する方法によっております。変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、また当社グループの信用状態は実行後大きく異なっていないことから、公正価値は帳簿価額にほぼ等しいと考えられるため、当該帳簿価額によっております。

また、1年以内で決済されるものについては、公正価値は帳簿価額と近似しております。

・その他の金融負債

長期の項目については、将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に基づく利率で割り引いた現在価値等により算定しております。

(2) 経常的に公正価値で測定される金融商品

経常的に公正価値で測定される金融商品について、測定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じた公正価値測定額を、レベル1からレベル3まで分類しております。

レベル1：活発な市場における同一の資産又は負債の市場価格（無調整）

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3：観察不能なインプットを含む評価技法によって算出された公正価値

公正価値のヒエラルキー

公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーは以下のとおりであります。

前連結会計年度（2022年12月31日）

（単位：千円）

	公正価値			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
その他の金融資産				
株式及び出資金	-	-	35,930	35,930
保険積立金	-	-	172,472	172,472
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
その他の金融資産				
株式及び出資金	29	-	175,465	175,494
合計	29	-	383,868	383,897

当第3四半期連結会計期間（2023年9月30日）

（単位：千円）

	公正価値			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
その他の金融資産				
株式及び出資金	-	-	34,112	34,112
保険積立金	-	-	197,034	197,034
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
その他の金融資産				
株式及び出資金	30	-	63,457	63,487
合計	30	-	294,604	294,634

公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、振替を生じさせた事象又は状況の変化が生じた日に認識しております。各年度において、公正価値レベル1とレベル2の間の重要な振替は行われておりません。

評価プロセス

レベル3に分類された金融商品については、経理部門責任者により承認された評価方針及び手続きに従い、外部の評価専門家又は適切な評価担当者が評価及び評価結果の分析を実施しております。評価結果は経理部門責任者によりレビューされ、承認されております。

レベル3に分類された金融商品に関する定量的情報

レベル3に分類した株式、出資金の公正価値の測定は、観察可能でないインプットを用いているため、レベル3に分類しております。

レベル3に分類した金融商品の評価技法及び観察可能でないインプットは以下のとおりであります。

前連結会計年度（2022年12月31日）

区分	評価技法	観察可能でない インプット	範囲
純損益を通じて公正価値で測定する 金融資産	純資産価額アプローチ (NAV)	1株当たり時価純資産額	-
その他の包括利益を通じて公正価値 で測定する金融資産	類似会社の市場価格に基 づく評価モデル	株価純資産倍率 非流動性ディスカウント	0.63倍 30.00%

当第3四半期連結会計期間（2023年9月30日）

区分	評価技法	観察可能でない インプット	範囲
純損益を通じて公正価値で測定する 金融資産	純資産価額アプローチ (NAV)	1株当たり時価純資産額	-
その他の包括利益を通じて公正価値 で測定する金融資産	類似会社の市場価格に基 づく評価モデル	株価純資産倍率 非流動性ディスカウント	0.49倍 30.00%

公正価値は主に、1株当たり純資産額、株価純資産倍率の上昇（低下）により増加（減少）し、非流動性ディスカウントが上昇（低下）した場合には公正価値は減少（増加）する関係にあります。

なお、観察可能でないインプットを合理的に考え得る代替的な仮定に変更した場合に見込まれる公正価値の増減は重要ではありません。

レベル3に分類された金融商品の期首残高から期末残高への調整表

レベル3に分類された金融商品の当期首から当期末までの変動は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
期首残高	357,084	383,868
利得及び損失合計	2,123	22,530
純損益(注)1	10,732	11,743
その他の包括利益(注)2	12,856	10,787
購入	147,744	43,627
売却	102,005	107,721
その他	37,443	2,639
期末残高	367,505	294,604

報告期間末に保有している資産について純損益に計上された当期の未実現損益	10,732	11,743
-------------------------------------	--------	--------

- (注) 1. 純損益に含まれている利益又は損失は、決算日時点の純損益を通じて公正価値で測定する金融資産に関するものであります。これらの純損益は要約四半期連結損益計算書の「金融収益」又は「金融費用」に含まれております。
2. その他の包括利益に含まれている利得又は損失は、決算日時点のその他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に関するものであります。これらの利得又は損失は、要約四半期連結包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産」に含まれております。

(3) 償却原価で測定される金融商品

償却原価で測定される金融商品の帳簿価額と公正価値は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)		当第3四半期 連結会計期間 (2023年9月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
償却原価で測定する金融資産				
敷金及び保証金	414,244	413,180	421,502	420,138
合計	414,244	413,180	421,502	420,138
償却原価で測定する金融負債				
社債	102,000	101,234	88,000	87,395
長期借入金	1,046,710	1,037,004	1,084,909	1,078,186
預り保証金	34,394	34,249	25,384	25,302
合計	1,183,104	1,172,489	1,198,293	1,190,884

15. 関連当事者

(1) 関連当事者との取引

当社及び当社連結子会社と当社の関連当事者である連結子会社との間の取引は、連結上消去されており、注記には開示されていません。

当社グループとその他の関連当事者との取引高及び未決済金額は以下のとおりです。

前第3四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）

（単位：千円）

種類	関連当事者関係の内容	取引金額	未決済金額
経営幹部が議決権の過半数を所有している会社等	デジタル広告の受託（注）2	3,028,601	908,495
	映像制作等の受託（注）3	7,580	-
	業務委託（注）4	16,273	2,163
	設備の賃貸（注）5	138,839	571,067
関連会社	映像制作等の受託（注）6	509,008	124,824
	ロイヤリティ等の支払（注）6	1,829,946	439,958
その他の関係会社の子会社	利息の支払（注）7	3,452	-

（注）1．取引については、市場価格等を勘案して決定しております。

2．(株)FA Projectにおいて、デジタル広告を行っております。

3．(株)allfuzにおいて、映像制作等を受託しております。

4．(株)ゼストのスクール事業及び(株)FA Projectのデジタル広告事業において、業務委託をしております。

5．設備の賃貸に係る未決済金額については、当社の経営幹部が保証を行っております。

6．主に(株)ノース・リバーにおいて、映像制作等の受託及びロイヤリティ等の支払いを行っております。

7．(株)KeyHolderにおいて資金の借入を行ってりましたが、第1四半期連結累計期間において全額返済しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）

（単位：千円）

種類	関連当事者関係の内容	取引金額	未決済金額
経営幹部	新株予約権の権利行使（注）2	10,670	-
	借入金に対する被保証（注）3	210,336	-
経営幹部が議決権の過半数を所有している会社等	デジタル広告の受託（注）4	6,773,815	709,273
	業務委託（注）5	30,540	3,957
	設備の賃貸（注）6	129,630	366,924
	株主優待券の発行（注）7	4,820	5,302
関連会社	映像制作等の受託（注）8	467,520	170,548
	ロイヤリティ等の支払（注）8	2,001,617	446,120
その他の関係会社の子会社	キャストイングの受託（注）9	60,505	-

（注）1．取引については、市場価格等を勘案して決定しております。

2．新株予約権の権利行使に係る取引金額は、権利行使による付与株式数に行使価格を乗じた金額を記載しております。

3．当社の経営幹部が当社連結子会社である(株)UNITED PRODUCTIONSによる金融機関からの借入に対する保証を行っております。

なお、保証料の支払いはありません。

4．(株)FA Projectにおいて、デジタル広告を行っております。

5. (株)ゼストのスクール事業及び(株)FA Projectのデジタル広告事業において、業務委託をしております。
6. 設備の賃貸に係る未決済金額については、当社の経営幹部が保証を行っております。
7. 株主優待券については、当社の株主優待制度において利用しております。
8. 主に(株)ノース・リバーにおいて、映像制作等の受託及びロイヤリティ等の支払いを行っております。
9. (株)allfuzにおいて、広告に関するキャスティングを受託しております。

16. 後発事象

(株式取得による会社等の買収)

当社は、2023年11月13日開催の取締役会において、当社連結子会社である株式会社ノース・リバー（以下「ノース・リバー」という。）が、主にゲームアプリの企画・開発・運営等を行う株式会社10ANTZ（以下「テンアンツ」という。）の株式の一部を取得（以下「本件株式取得」という。）することにつき決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

(1)株式取得の目的

当社グループにおきましては、これまでに数々のM&Aの実施を通じて規模の拡大を含む組織体制の強化及び再編に努めた結果、主力事業であるアーティストやタレント、スポーツ選手などの運営・管理を行う総合エンターテインメント事業、バラエティ番組からテレビドラマ制作、映画・CM等に係る映像制作事業、そして数々の販促・コラボ・プロモーション企画等を手掛けてきた広告代理店事業などを中心に、総合エンターテインメント企業グループとしての体制の構築を図り、積極的な事業活動を展開してまいりました。

ノース・リバーは、当社グループ体制を構築する過程において、女性アイドルグループの「乃木坂46」を運営する乃木坂46合同会社の株式の50%を保有し、主に同グループのライブ制作及びグッズ制作や販売、ファンクラブに関する運営・管理に加え、アイドルグループ等に係るDVD・ライブ映像コンテンツの制作を行っており、当社グループ業績を牽引する存在として、大きな役割を担っております。

一方、テンアンツは、2013年の設立以降、国内トップレベルの大学出身者が多数在籍する、質の高い人材を武器にゲームアプリの企画・開発を中心とし、プラットフォーム事業や映像制作、デジタルマーケティング事業等の幅広い分野へも進出するなど、事業規模を拡大されております。ゲームアプリ事業においては、複数タイトルのゲームアプリの開発を行っており、その中でも、ノース・リバーが関連している乃木坂46のメンバーとの恋愛疑似体験ができる、乃木坂46公式恋愛シミュレーションゲームアプリ「乃木恋～坂道の下で、あの日は恋をした～」に関しては、配信開始6年目となる昨年の2022年9月時点で累計ダウンロード数が1,000万を突破するなど、長期間に渡ってユーザーに愛されるコンテンツの開発ノウハウを有しております。

このような中、近年の消費者（アプリユーザー）の趣味や志向・流行は、新コンテンツが日々生み出されることで常に変化し続けており、この潮流を的確に掴み、新たなコンテンツを提供し続ける必要があると認識しております。

この度の株式取得に際しまして、両社間では乃木坂46という日本トップクラスの女性アイドルグループのアプリを通して、もとより良好な取引関係が構築されていたことを前提に、当社グループが有する他のアーティスト等のIPやコンテンツにおける新展開のほか、株式会社UNITED PRODUCTIONSなどが生み出す映像コンテンツや、株式会社FA Projectのデジタル広告事業ならびに、bijoux株式会社によるオーディション企画の開催と運営など、当社グループにおける各種既存リソースとのあらゆるシナジーによる新展開が期待でき、結果として双方のさらなる事業規模の拡大を図れるものとの認識を共有できたことにより、本件株式取得をするものです。

(2)株式取得の相手先

高澤 真
高澤 和歌
合同会社ロイヤルコート

(3)株式取得する会社の名称等

名称	株式会社10ANTZ
住所	東京都渋谷区渋谷3-12-18 渋谷南東急ビル4階
代表者の氏名	代表取締役 高澤 真
資本金の額	51,444千円（2023年6月30日現在）
事業の内容	ゲームアプリ事業、プラットフォーム事業、映像・IP事業、デジタルマーケティング事業、エンタメテックソリューション事業 等

(4)株式取得の時期
2024年1月1日(予定)

(5)取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率
取得する株式の数 3,245株
取得価額 1,314,017千円
取得後の持分比率 51.0%

(6)支払資金の調達及び支払方法
現預金により充当予定

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月13日

株式会社KeyHolder

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 岩崎 剛 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 今川 義弘 印
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社KeyHolderの2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、株式会社KeyHolder及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財

務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。